

『ココロ屋』 ～三年生・上 141 ページ＜本の世界を広げよう＞

梨屋アリエ 作
菅野由貴子 絵



『ココロ屋』って、不思議なタイトルですね。初めにこのタイトルを見て、お店？ココロを売るお店？と不思議に思いましたが、表紙の男の子の絵が楽しげだったので、きっと良いお話だろうと思い読み始めました。

確かに『ココロ屋』は、ココロを売るお店でした。でも、馬込銀座商店街のような場所にお店があるわけでもなく、どこかからお店の入り口のドアがやってくる…ココロ屋はそんな不思議なお店でした。

三年生の主人公ひろきは、ココロ屋の主人ウツロイ博士の計らいで、“やさしいココロ”や“すなおなココロ”“あたたかいココロ”と自分のココロを入れ替えて、いろんなココロを体験します。そして最後にひろきが選んだココロは…

2019年度の3年3組の図書の時間に、少しずつ朗読した本です。1、2学期を通して読みきりました。絵本ではないので、毎回子ども達に「想像しながら聞いてね」と伝えてから朗読をしました。

はじめのうちはなんとなく朗読は面白くなさそうだった子ども達が、どんどんお話に引き込まれていき、「図書の授業の最初はココロ屋」という良いペースができました。3年3組の子ども達と司書のココロが、どんどん近くなっていくことを実感することができました。

- 読むのにかかる時間 1時間～
- 単行本 全編119ページ
- 文研ブックランド